

H25年度冬休み明け、第5ステージ開始に当たって

H26.1.6 橋本 忠

新年の挨拶をしましょう。あけましておめでとうございます。

平成25年がスタートしました。今年のお正月はみなさんにどうだったでしょうか。楽しいお正月を迎えることができましたか。

さて、新しい年を迎えると気分も新鮮になり、今年1年間頑張ろうと意欲が沸いてきます。「一年の計は元旦にあり」という言葉はよく使われますね。「一年間の計画は、元旦、つまり一月一日の朝に立てるべきだ。」ということでしょう。みなさんも、「今年こそこんな1年にするぞ」という気持ちで「新年の誓い」を書いたと思います。私自身も誓いを立てました。それは「いたわりの気持ちを大切にする」という誓いです。

みなさんも今までたくさんの人達から「いたわり」の言葉や「思いやり」のある行動をしてもらった経験があると思います。他の人から「いたわり」の言葉や行動を頂いたときには、心が温かくなりますよね。

歴史があまり得意でない先生ですが、そんな先生でも知っている有名な歴史小説家で司馬遼太郎さんという方がいます。司馬さんがこの「いたわりという感情」について書いています。

……
私は、人という文字を見るとき、しばしば感動する。ななめの画がたがいに支え合って、構成されているのである。……中略……

自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていません。

このため、助け合う、ということが、人間にとて、大きな道徳になっている。

助け合うという気持ちや行動のもとは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることと言ってもいい。やさしさと言いかえてもいい。「やさしさ」「おもいやり」「いたわり」「他人の痛みを感じること」みな似たような言葉である。これらの言葉は、もともど一つの根から出ている。根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につければならない。

その訓練とは、簡単なことだ。例えば、友達がころぶ。ああ痛かったろうな、と感じる気持ちを、そのつど自分でつくりあげていきさえすればよい。

この根っここの感情が、自己の中でしっかりと根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちもわき出てくる。

君たちさえ、そういう自己をつくるといけば、二十一世紀は人類が仲良しで暮らせる時代になるにちがいない。……

いたわりとか思いやりという気持ちは練習しないと身につかないんだ。なるほど、思いやりのある人間になりたいと思ったらその訓練を積み上げるしかないんだ。改めて考えさせられる文章でした。

さて**3年生**、いよいよ受検です。今までの努力の成果を出すときが来ました。大きな目標に向かって今日、今の時間にできることをこつこつ積み上げて「受検」という大きなハードルを乗り越えて下さい。そんな中でも他の人への思いやりの練習は忘れないで下さい。

2年生、いよいよ**3年生**となります。「3年生といえば、学校の顔」です。**1年生**、**2年生**となると新**1年生**という後輩ができます。先輩となります。良い学校の顔、良い先輩となるよう準備をして行って下さい。そんなときでもまず大切な気持ち、それは「いたわり」ですね。あなたのすぐ近くにいる友だちや家族にぜひ、「いたわり」の気持ちをもつ練習をしてほしいと思います。いたわり合いの気持ちが響き合えば、きっとみなさん一人一人にとって、さらに過ごしやすい学校になります。

1年間の終わりに向けて、そして、次の新しい年度の準備のために、この第5ステージもがんばりましょう。

みなさんの地道な努力といたわりの気持ちを期待しています。
以上でお話を終わります。